

4 学習活動と評価方法（学習指導案）（障害の表記は、使用教科書 社会福祉基礎（実教出版）に準拠して記載）

科目名	社会福祉基礎	指導クラス	3年福祉科	
使用教科書	社会福祉基礎（実教出版）			
単元名	第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度			
本時の主題	第4章 高齢者福祉と介護保険制度			
指導観	<p>現在日本は超高齢社会であり、「2025年には団塊の世代が75歳以上になる」という2025年問題に直面している。このような状況の中、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるよう、地域包括ケアシステムの構築が求められている。これまでの学習のなかで生徒たちは、介護保険制度や介護保険施設・サービスなどについて学んできた。</p> <p>本単元では、介護保険制度の理解を踏まえ、生徒自身が創造的な介護サービスを企画・発表し、現場の専門家の視点を通じて福祉の実践力を育むことを目指す。岐阜県内の福祉科設置校をTeamsでつなぎ、各学校の発表を聞き、他者の意見を聞いて理解を深めさせる。</p>			
本時の目標	<p>・他者の意見を聞いて評価することで福祉の課題に対する多様な視点に気づき、自分から考えることができる。【思考・判断・表現⑳】</p>			
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価規準と評価方法	指導上の留意点
導入 5分	本時の目標の確認	<p>1 本時の目標を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに目標を記入する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsで4校（岐阜各務野・坂下・益田清風・大垣桜）をつないでおく。 ・前回の授業内容を振り返る。 ・本時の目標を確認させる。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が自分らしく生きるための支援についての発表・評価。 	<p>2 高齢者が自分らしく生きるための支援について、自分たちで考えたサービスについて発表する。（学科設置校である3校のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価表に記入しながら他校の発表を聞く。（各校1案） <p>3 実際に現場で働いている専門職の話聞く。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場で働く施設長の話を通じて、介護福祉士として求められる資質や姿勢を理解し、自分の進路や将来の働き方について考える。 	<p>○評価規準</p> <p>【思考・判断・表現⑳】</p> <p>他者の意見を聞いて評価することで福祉の課題に対する多様な視点に気づき、自らも表現することができる。</p> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート <p><Aの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を現在の介護保険のサービスや自分の意見と比べながら聞き、評価できる。 	<p><Bを実現するための指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の介護保険サービスや自分の求めるサービスと比較しながら評価するよう伝える。 <p><Cへの手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の介護保険制度や自分の考える自分らしく生きるために必要なことについて内容を振り返り、個別に助言する。
まとめ 5分	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えたことと現場の専門職の話聞いて感想を記入する。 ・本時の内容について自己評価をし、振り返る。 		

5 成果と課題（実践後の評価結果）

	学習活動における 具体的評価規準（B）	「十分満足できる」と 判断される状況（A）	「努力を要する」と 判断される状況（C）
評価	評価規準【思考・判断・表現】 ・他者の意見を聞いて評価することで福祉の課題に対する多様な視点に気付き、自らも表現することができる。	・発表を現在の介護保険のサービスや自分の意見と比べながら聞き、評価できる。	・現在の介護保険制度が理解できていない。自分らしく生きるために必要なことについて考えられず記入できていない。
記述例	・自分にはない視点からサービス提案がされていて実際にあると良いと思った。 ・高齢者が何に困っているのかを把握し、その課題を解決できるよう支援していきたい。 ・利用者が退屈だと思っている時間を何とかしていきたい。	・財源については考えていなかったが、実際にサービスをつくらうと思ったら財源まで考えないと実現できないと持った。 ・これまでは今現在のサービスについてしか考えられていなかったけど、終活についても目を背けずに考えていくことも必要である。	・未記入

【まとめと今後の課題】

今回の授業では、介護保険法について学習した後、現存しない介護保険サービスについて各自で内容等を考えさせ、そのサービス案を発表した。そして県内の福祉を学ぶ4校（岐阜各務野高校・坂下高校・益田清風高校・大垣桜高校）をTeamsでつなぎ各学校の発表を聞き、評価することで理解を深めさせた。

4校の交流をオンラインでつないで行うことができたことが一番の成果である。これまでなかなか実現できなかったが、実際に行い、多くの成果や課題があった。授業前は他の学校と交流できることを楽しみにしている生徒も多くいた。質疑応答等、生徒たちが実際に交流できる場をもう少し設けるべきであった。今回、通信がうまくいかなかった場合を想定して、事前に各学校の教員が代わりに発表するという準備をしておいた。当日、音が小さく発表者の声が聞こえない場面があったため、代替案を用い教員が代わりに発表を行った。オンライン授業を行う場合においては、不測の事態に備えた準備が必要不可欠になるため、準備を万全にした上で行っていく必要性を感じた。

今回の研究授業では、特に通信の状況が気になり、通信の状態にばかり気を取られ生徒の様子をあまり見ることができなかった。オンライン授業を行う際には、複数の教員で協力し生徒の様子をしっかりと見たうえで授業展開をしていきたい。また、学校ごとに教育課程や進度も異なるため学校の実態に合わせた取り組みを模索していきたい。

また、授業時間は各学校で異なるため、同じ時間で設定することの難しさも感じた。しかし、これから福祉を学んでいく中で、視野を広げるためにも他校との交流を行うことはとても有益であるため、今後も交流等を取り入れていきたいと考えている。今後は、今回の課題解決をはじめ、生徒が学びを深められるよう効果的にオンラインを活用していきたい。また、生活支援技術の実技においても他校との交流を取り入れ、生徒が利用者に寄り添ったよりよい支援方法を考え、身に付けられるように指導していきたい。